

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **45** 号

平成15年 4・5・6月



国宝 華嚴宗祖師絵伝〈義湘絵〉 高山寺

平
常
展

仏教美術の名品

4月1日(火)～

本館

特
別
展

女性と仏教

いのりとほほえみ

4月15日(火)～5月25日(日)

東・西新館

女性と仏教

いのりとほほえみ

◆会期 四月十五日(火)～五月二十五日(日)
◆会場 奈良国立博物館東・西新館
◆主催 奈良国立博物館・産経新聞社

仏教がわが国に伝来したのは六世紀のこと、最初の出家者は女性(善信尼)でした。善信尼は百済に渡ってさらに仏教を学び、飛鳥時代の仏教興隆に貢献しました。聖徳太子の周辺にも熱心な女性信者の姿がありました。そのうち、わが国における仏教発展の原動力になった女性も多く、持統天皇・橘夫人・光明皇后・称徳天皇・檀林皇后といった人々によつて、造寺・造仏・写経などが積極的におこなわれることにより、仏教はさかんになり、信仰も深まってきました。

平安時代になると、女性は成仏できないとも言われるようになりますが、それさえも発心の機縁として、法華経

信仰や浄土信仰の高まりのなかで、女性によつて美しい装飾経が制作され、仏像や仏画の制作の背景にも女性の存在を知ることができます。またさまざまな靈驗記や往生伝の主人公にも女性が少なくありません。

鎌倉時代には、法然や日蓮などの祖師によつて新しい仏教が誕生しますが、その周囲にも多くの女性の姿がありました。またこの時代には、明恵・叡尊らによつて尼寺が創建あるいは復興される動きが見られ、尼自身の活動にも特筆すべきものがあります。明恵の善妙寺創建、叡尊の法華寺復興、信如の中宮寺復興、無外如大の景愛寺創建などは、鎌倉時代の仏教を考えるうえで

える細やかな信仰の遺品も残されています。

この展覧会は、女性の多様な信仰の様相と、わが国の仏教の展開に女性が果たした大きな役割を、Ⅰ仏教の受容と女性、Ⅱ宮廷の女性と仏教、Ⅲ浄土憧憬、Ⅳ信仰と靈驗、Ⅴ法華経の信仰と女性、Ⅵ母と子のイメージ、Ⅶ鎌倉仏教と女性、Ⅷ表わされた女性信者の姿、Ⅷ女性の信仰の種々相、という九つのテーマのもとに大観します。仏教が女性をどう見たかではなく、女性が仏教をどう見たかという視点にできるかぎり立ち、多数の国宝・重要文化財を含む名品の数々を通して、女性と仏教の関わりをみつめていきます。

《主な出展作品》

●天寿国繡帳(奈良・中宮寺)、●観音菩薩立像(東院堂安置)(奈良・薬師寺)、●阿彌陀如来及両脇侍像(伝橘夫人念持仏)、●厨子(以上、奈良・法隆寺)、●緊那羅立像(八部衆のうち)(奈良・興福寺)、法華寺阿彌陀浄土院出土品(奈良文化財研究所)、●大毗盧遮那成仏神変加持経巻第一(吉備由利願経)(奈良・西大寺)、●理趣経(目無経)(東京・大東急記念文庫)、●当麻曼荼羅



●普賢十羅刹女像(部分) 当館

縁起絵巻(神奈川・光明寺)、●金銅経箱(比叡山横川如法堂跡出土)(滋賀・延暦寺)、●信貴山縁起絵巻(尼公巻)(奈良・朝護孫子寺)、●粉河寺縁起絵巻(和歌山・粉河寺)、●久能寺経のうち(警備品第三・化城喻品第七・提婆達多品第十二)(静岡・鉄舟寺)、●平家納経のうち序品第一・勸持品第十三・分別功德品第十七・薬王品第二十三・厳王品第二十七(広島・厳島神社)、●普賢十羅刹女像(当館)、●摩耶夫人及び天人像(東京国立博物館)、●釈迦金棺出現図(京都国立博物館)、●六道絵(兵庫・極楽寺)、●訶梨帝母像(滋賀・園城寺)、●閻魔天像(京都・醍醐寺)、●法然上人絵伝第六、十八、三十四卷(京都・知恩院)、春日権現験記絵第十七卷(東京・宮内庁三の丸尚蔵館)、●華嚴宗祖師絵伝(義湘絵)、●善妙神立像(以上、京都・高山寺)、●法華



●平家納経(勸持品第十三) 厳島神社



●阿彌陀如来及両脇侍像(橘夫人念持仏)・厨子 法隆寺

できわめて重要な出来事であると言えます。また鏡や櫛を納入した仏像、髪を使用した繡仏、尼寺に伝わる染織品など、女性特有とも言

「扶桑之旅——日本文物精品展」

◆会期 五月一日(木)～六月十五日(日)
◆会場 中国国家博物館(中国・北京市)
◆主催者 文化庁・奈良国立博物館・国際交流基金・中国国家博物館

今年は日中友好条約が締結され三十周年を迎える記念の年です。この間両国は文化、経済、学問など様々な分野で交流を深め、友好関係を築いてきました。文化面では中国の文物を紹介する展覧会が日本各地で頻繁に開かれるようになり、時には発掘調査で出土して間もない文物が日本で初公開されたことも珍しくありません。それによつて中国文化への理解と関心は一段と深まり、日本文化の源泉をたどるべく中国へ旅し、遺跡や博物館をめぐる日本人も増えていきます。

「扶桑之旅」展は天安門広場に面し、中国を代表する博物館である中国国家博物館で開催されます。中国の首都北京において日本文物を総合的に紹介する展覧会は初めてのことです。展示内容は「日本の考古」、「仏教と神道の美術」、「正倉院宝物の世界」、「貴族と武家の暮らし」、そして「近世の彩り」という構成で、九九点の名品によつて日本美術の粋を鑑賞できるようにしています。

- ◎桜螺鈿鞍(文化庁)
- ◎桐竹蒔絵蒔絵文台硯箱(東京・サントリ美術館)
- ◎金銅火焰宝珠形舍利容器(奈良・海龍王寺)
- ◎亀甲檜垣に藤文様小袖(京都国立博物館)



火焰型土器 文化庁



春日鹿曼茶羅 当館

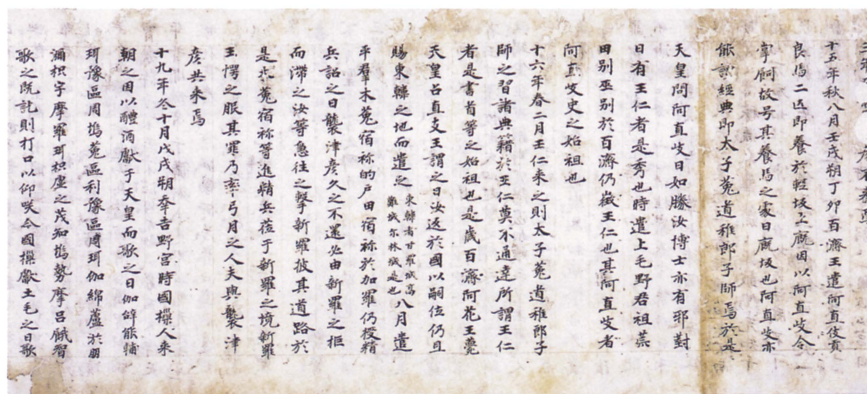
しかし、中国において日本美術を紹介する展覧会は少なく、そのため中国人の日本文化への関心は今ひとつ高いとはいえません。中国における最初の日本文物の本格的な展覧会が、ようやく二〇〇一年にいたり文化庁および奈良国立博物館との共催として、上海博物館で開催されたこ

「主な出陳作品」

- ◎土偶 兵庫・辰馬考古資料館
- ◎埴輪武装男子立像(東京国立博物館)
- ◎高松塚古墳壁画模写(奈良文化財研究所)
- ◎日本書紀卷十(奈良国立博物館)
- ◎尊勝曼茶羅(奈良国立博物館)
- ◎如意輪観音坐像(奈良国立博物館)
- ◎桐蒔絵手箱(和歌山・熊野速玉大社)



色々威胴丸 文化庁



◎日本書紀 卷第十 当館



◎多聞天立像 当館

展 示 評

外からみる奈良博

親と子のギャラリー『一遍聖絵』展寸評

美術史家 中野 玄三

昨年十一月から十二月にかけて、奈良国立博物館で開催された『一遍聖絵』展は、同年十月から十一月にかけて、京都国立博物館で開催された『一遍聖絵』展と連繋した展覧会で、神奈川・清浄光寺・京都・歓喜光寺共有の『一遍聖絵』十二巻と、東京国立博物館所蔵の『一遍聖絵』巻七・一卷を、京都国立博物館では全巻の前半部分、奈良国立博物館では後半部分を展示し、この長大な絵巻の全巻すべてを公開するという壮大な企画であった。これは六年をかけて慎重に行われた修理により、面目を一新したこの国宝絵巻を、広く一般に公開するために実現したのである。

奈良国立博物館の場合は、単に後半部分の展示にとどまらず、同館が毎年継続して開催している『親と子のギャラリー』展の一環として、独自の観点から、京都国立博物館とは異なる展示が企画された。展覧会のために制作された図録も、このため特別の工夫がこらされることになった。

同館では前年の『親と子のギャラリー』展で、『絵巻にしたしむ』というテーマを取りあげていた。展示品には、『信貴山縁起絵』・『華嚴五十五所絵』・『玄奘三蔵絵』・『粉河寺縁起絵』等国宝絵巻を始めとして、多くの名品が並び、人々を驚かせた。今回の『一遍聖絵』展は副題に『絵巻をあじわう』をつけ、前年の『絵巻にしたしむ』をうけて、今回は『一遍聖絵』一点にしばり、『絵巻にしたしむ』段階から『絵巻をあじわう』という、一段進んだ段階を目差す展覧会担当者の目標設定を明確にしている。

しかし、子供に絵巻をあじわわせるのは簡単なことではない。とくに『一遍聖絵』は詞が難解で、絵巻の物語の展開がわかりにくい作品である。このむずかしい絵巻をあじわわせるために、この展覧会では、絵をよくみることを中心に据え、七つの重点項目を取りあげて、担当者が平易な文章で、絵巻

表現の奥深さを解き明した。七つの重点項目とは、「裏返しの高野山」・「影をえがく」・「富士山は神のすみか」・「中国の絵をまなんだ風景」・「見たことのない実景」・「臨終は涅槃のように」・「お墓にまつられた一遍上人像」である。七項目はいずれも精密な観察と熟考の結果、『一遍聖絵』の核心をついた解説になっているが、なかでも注目されるのは、今回の修理により改めて確認された一遍の臨終の姿が、当初は涅槃図の釈迦のように頭北面西で手枕をして横たわる姿だったことに関する解説で、これが現状のように仰向けで合掌する姿に変更された理由について、納得の行く説明が述べられている。

確かにこのような重点的解説によつて、『絵巻にしたしむ』から『絵巻をあじわう』へと、一段と絵巻に対する理解が深まった感がある。しかし、そのような理解が、小中学生にまで可能なのだろうか。私は去年同館のレストランで興味深い光景を見た。私の席近くに坐った若い母親が、注文の料理が届くまでの相当な長い時間、幼稚園児ぐらいの幼女を膝の上のせて、『東大寺のすべて』展のあの分厚い図録を広げて、指で差し示しながら説明していた。幼女は黙つておとなしく、母親の指の差すところを見ていた。私にもこの幼女と同じ年ぐらいの孫がいるが、私の孫にこんなことをしたらどうなるのか、すこぶる自信がない。しかし、『一遍聖絵』展図録の「はじめに」のなかで、驚塚館長が述べておられるように、「この解説や、何よりも絵巻そのものを仲立ちにして、おとなと子どもの間に対話が生れる」ことは可能であるように思われる。そのためには、何回かの親と子の博物館見学の積み重ねが必要であることは論をまたないのだが。



●一遍聖絵 清浄光寺・歓喜光寺



●金銅経箱 延暦寺



◎地藏菩薩立像 伝香寺



◎天寿国繡帳(部分) 中宮寺

特別展

「女性と仏教 いのりとほほえみ」

4/15～5/25 東西新館

I 仏教の受容と女性

●日本書紀卷第二十(東京・前田育徳会)、
●日本書紀卷第二十二(京都国立博物館)、
●元興寺縁起(京都・醍醐寺)、豊
浦寺出土品(奈良文化財研究所、奈良・
橿原考古学研究所付属博物館)、●天
寿国繡帳、中宮寺出土品(以上、奈良・
中宮寺)、尼寺廃寺出土品(奈良・香芝
市二上山博物館)、夏見廃寺出土品(京
都大学総合博物館 三重・名張市教育
委員会、当館)、本薬師寺出土品(奈良
文化財研究所)、●観音菩薩立像(東院
堂安置)(奈良・薬師寺)、●阿弥陀如来
及両脇侍像(伝橘夫人念持仏・厨子(奈
良・法隆寺)、●如意輪陀羅尼經(校倉
聖教のうち)(滋賀・石山寺)、●栗原寺
三重塔伏鉢(奈良・談山神社)、大野寺
土塔出土品(大阪・堺市埋蔵文化財セン
ター)

II 宮廷の女性と仏教

●舍利弗立像(十大弟子のうち)、●緊
那羅立像(八部衆のうち)(以上、奈良・
興福寺)、造仏所作物帳断簡、阿闍世王
経卷下(五月一日経)(以上、当館)、自
在王菩薩経下卷(五月十一日経)(奈良・
海龍王寺)、●成唯識論卷第十(坤宮宮

一切経(奈良・興福寺)、法華寺出土品
(奈良・法華寺、奈良文化財研究所)、法
華寺阿弥陀浄土院出土品(奈良文化財
研究所)、陸奥国分尼寺出土品(宮城・
東北大学)、下総国分尼寺出土品(千葉・
市川市立市川考古博物館)、三河国分
尼寺出土品(愛知・豊川市教育委員会)、
出雲国分尼寺出土品(島根県教育委員
会)、阿波国分尼寺出土品(徳島・石井
町教育委員会)、肥後国分尼寺出土品(熊
本市教育委員会)、●写経所請経文(静
岡県立美術館)、●東大寺縁起絵巻下
巻(奈良・東大寺)、●四天王像(断片)
(奈良・西大寺)、●百万塔(奈良・法隆
寺)、西大寺出土品、西隆寺出土品以上、
奈良文化財研究所)、●釈迦如来像(塔
本四仏のうち)(奈良・西大寺)、●十誦
律卷第五十二(称徳天皇御願経)(滋賀・
石山寺)、●大毗盧遮那成佛神变加持
経卷第一(吉備由利願経)、●金光明最
勝王経卷第十(百済豊虫願経)(以上、
奈良・西大寺)、●阿難四事経(藤原夫
人願経)(京都国立博物館)、類毘婆沙
王諸仏功德経(藤原夫人願経)(京都・
檀王法林寺)、●中阿含経卷第九(善光
朱印経)(当館)、●大般若経卷第二百五
十七(池上内親王願経(個人)、日本文
徳天皇実録(奈良・天理大学)、●三宝絵
詞(東京国立博物館)、●法華経卷第一
(荒川経)、●美福門院令旨(宝簡集の
うち)(以上、和歌山・金剛峯寺)、●金

光明経卷第三(目無経)(京都国立博物
館)、●理趣経(目無経)(東京・大東急
記念文庫)、●阿字義(大阪・藤田美術館)

III 浄土憧憬

●当麻曼荼羅(京都・知恩院)、当麻曼
荼羅(当館)、●当麻曼荼羅縁起絵巻(神
奈川・光明寺)、●当麻曼荼羅縁起(京都・
禅林寺)、●焼阿弥陀縁起(神奈川・
光触寺)、●二河白道図(兵庫・香雪美術
館)、●二河白道図(島根・萬福寺)、●釈
迦阿弥陀発遣来迎図(徳島・雲辺寺)、
阿弥陀来迎図(奈良・大蔵寺)、●阿弥
陀三尊像(愛知・無量光院)、阿弥陀如
来立像(北海道・天融寺)、●栄花物語
卷第十八(東京国立博物館)、●金銅経
箱(比叡山横川如法堂跡出土)(滋賀・
延暦寺)、●比井王子神社経塚遺物(和
歌山・比井王子神社)、●朝熊山第三経
塚遺物(三重・金剛証寺)、線刻子守三所
権現鏡像(東京国立博物館)

IV 信仰と霊験

●日本霊異記上巻(奈良・興福寺)、●
日本霊異記中・下巻(京都・来迎院)、●
日本往生極楽記(奈良・天理大学)、●
続本朝往生伝(東京・大東急記念文庫)、
●今昔物語集卷第十二(京都・大
附属図書館)、●信貴山縁起絵巻(尼公
巻)(奈良・朝護孫子寺)、●粉河寺縁起
絵巻(和歌山・粉河寺)、●石山寺縁起

絵巻第二巻(滋賀・石山寺)、●熊野権現
影向図(京都・檀王法林寺)

V 法華経の信仰と女性

●栄花物語卷第十六(東京国立博物館)、
●久能寺経(十九巻のうち三巻 譬喻品
第三・化城喻品第七 提婆達多品第十二)
(静岡・鉄舟寺)、●久能寺経(安楽行品
第十四)(東京国立博物館)、●法華経(香
川県歴史博物館)、●法華経(運慶願経
(個人)、●平家納経(三十三巻のうち五
巻 序品第一・勸持品第十三・分別功德
品第十七 薬王品第二十三・厳王品第二
十七)(広島・厳島神社)、●法華経(普
賢菩薩勧発品第二十八)(奈良・大和文
華館)、●法華経(陀羅尼品第二十六)(兵
庫・太山寺)、法華経(個人)、●法華経
冊子(個人)、●観普賢経冊子(東京・五
島美術館)、●扇面法華経冊子断簡(法
華経卷第一)(滋賀・西教寺)、●扇面法
華経冊子断簡(観普賢経(奈良・法隆
寺)、●普賢十羅刹女像(京都・廬山寺)、
●普賢十羅刹女像(個人)、●普賢十羅
刹女像(当館)、●普賢二菩薩(三十羅
刹女像(静岡・大福寺)、十羅刹女像(滋
賀・石山寺)

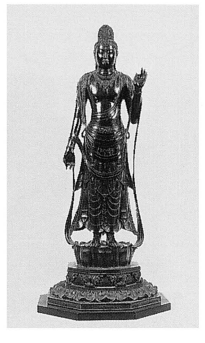
VI 母と子のイメージ
●摩耶夫人及び天人像(東京国立博物
館)、●刺繡釈迦如来説法図(当館)、●
釈迦金棺出現図(京都国立博物館)、●



○普賢十羅刹女像 当館



○摩耶夫人及び天人像 東京国立博物館



○観音菩薩立像 薬師寺

Ⅶ 鎌倉仏教と女性

仏涅槃図(奈良・達磨寺)、○仏涅槃図(和歌山・浄教寺)、観経序分義図(当館)、○譬喻経所説念仏利益図(六道絵のうち)(滋賀・聖衆来迎寺)、○六道絵(兵庫・極楽寺)、○訶梨帝母像(京都・醍醐寺)、訶梨帝母像(奈良県立美術館)、○訶梨帝母像(滋賀・園城寺)、○閻魔天像、○閻魔天騎牛像(以上、京都・醍醐寺)、○梅檀乾闥婆図(辟邪絵のうち)(当館)、○童子経曼荼羅(京都・智積院)、十五鬼神図卷(奈良・大和文華館)

●法然上人絵伝 第六・十八・三十四巻

(京都・知恩院、伝法絵流通(福岡・善導寺)、○親鸞聖人像(熊皮御影)(当館)、○一流相承系図(京都・仏光寺)、○一流相承系図(京都・長性院)、○一遍聖絵第二・四・五・六巻(神奈川・清浄光寺、京都・歓喜光寺)、○一遍聖絵第七巻(東京国立博物館)、○遊行上人絵巻第三巻(京都・金光寺)、○日蓮聖人像(千葉・浄光院)、○孟蘭盆御書(日蓮聖人筆(京都・妙覚寺)、○明恵上人像(樹上坐禅像)(京都・高山寺)、明恵上人像(大阪・久米田寺)、春日権現験記絵第十七巻(東京・宮内庁三の丸尚蔵館)、○明恵上人自筆書状(井上殿宛)(京都・細見美術館)、○華嚴宗祖師絵伝(義湘絵)、○善妙神立像、○明恵上人自筆夢記、○華嚴経(善妙寺尼経)(以上、京都・高

山寺)、○華嚴経(善妙寺尼経)(東京・前田育徳会)、○釈迦如来五百大願(京都・高山寺)、○高山寺絵図(京都・神護寺)、○高山寺縁起(京都・高山寺)、信如尼願文、靈鷲山院年中行事、○瑜伽師地論(信如尼加点)、○文殊菩薩立像、中宮寺梵網会等文書、中宮寺比丘尼孟蘭盆供願文文範(以上、奈良・中宮寺)、興正菩薩像、○西大寺三宝料田畠目録、○観尊自筆書状、○観尊自筆書状(以上、奈良・西大寺)、○観尊自筆書状、○法華寺舍利縁起、○法華滅罪寺縁起、○法華寺結界記、○法華滅罪寺年中行事(以上、奈良・法華寺)、○授菩薩戒弟子交名、○沙弥尼真妙願文(以上、奈良・西大寺)、文殊講式(奈良・薬師寺)、仏涅槃図(兵庫・妙法寺)、大黒天半跏像(奈良・法華寺)、○無外如大禅尼自筆書状(京都・大聖寺)、無外如大禅尼自筆書状、東峯恵日禅尼自筆置文(以上、滋賀・MIHOミュージアム)、法衣相承敷地之文書(京都・宝鏡寺)、とはすがたり(東京・宮内庁書陵部)、源実朝室置文(京都・大通寺)

Ⅷ 表わされた女性信者の姿

○仏涅槃図(兵庫県立歴史博物館)、○仏涅槃図(愛知・甚目寺)、仏涅槃図(愛知・無量光院)、阿弥陀浄土変相図(埼玉・常光院)、阿弥陀三尊来迎図(兵庫・常楽寺)、阿弥陀六地藏十羅刹女像(京都・

西寿寺)、○伝熱田宮司夫妻坐像(愛知・国分寺)、阿仏尼像(個人)、○長生比丘尼像(京都・大徳寺)、春屋宗永尼像(京都・大慈院)、蓮周尼像(石川・善福寺)、○高台院像(京都・高台寺)、○婦人像(奈良・大和文華館)

Ⅸ 女性の信仰の種々相

○薬師如来坐像(三重・四天王寺)、○大日如来坐像(静岡・修善寺)、○地藏菩薩立像(奈良・伝香寺)、聖徳太子立像(奈良・当麻寺中之坊)、聖徳太子立像(奈良・円成寺)、○懸守(大阪・四天王寺)、北白河院消息(明恵上人宛)(静岡県立美術館)、北白河院消息(明恵上人宛)(京都・古代学協会)、○刺繍普賢十羅刹女図(滋賀・宝厳寺)、刺繍阿弥陀三尊来迎図(個人)、刺繍釈迦三尊来迎図(京都・真正極楽寺)、○刺繍阿弥陀三尊来迎図(滋賀・宝厳寺)、刺繍阿弥陀三尊来迎図(当館)、刺繍阿弥陀三尊来迎図(奈良・中宮寺)、刺繍種子阿弥陀三尊来迎図(当館)、刺繍種子阿弥陀三尊来迎図(京都・禅林寺)、刺繍種子阿弥陀三尊来迎図(三重大福田寺)、刺繍六字名号(京都・宝鏡寺)、○刺繍袈裟(奈良・興福院)、幡(紅地御簾に菊花文様小袖裂)、幡(藍鼠地仔狗に雪梅景文様小袖裂)、幡(濃茶地震に桜落瀧文様小袖裂)、打敷(白地葛に唐扇文様打掛裂)、打敷(白地四季草花に鳳凰文様

打掛裂、白地葛に唐扇文様打掛裂)、打敷(萌葱地藤花に檜扇文様打掛裂)、打敷(白地三重襷卍字繫ぎと梅牡丹藤花東文様打掛裂(以上、奈良・中宮寺)

*「女性と仏教」出陳品は期間中展示替えを行ないます。

平常展

「仏教美術の名品」(彫刻)

本館

4/15

特別出陳

○薬師如来立像(唐招提寺金堂)

本館

特集展示

「動物たちの彫像」

本館

○木造獅子・狛犬、○木造獅子頭(以上、奈良・手向山八幡宮)、○埴輪牛(奈良・田原本町)、木造獅子頭(東大寺)、木造龍頭(当館)など。

平常展

坂本コレクション「中国古代青銅器」

本館第14・15室

爵・尊・鼎など殷周期のものを中心に様々な器種を二四〇点展示しています。

○国宝、○重要文化財

出陳作品は都合により一部変更する場合があります。

奈良博
NEWS

主催

奈良国立博物館
NHK奈良放送局
NHKきんきメディアプラン

期間

7月1日(火)～8月17日(日)

日本・インド国交樹立50周年記念
インド・マトウラー彫刻展
日本・パキスタン国交樹立50周年記念
パキスタン・ガンダーラ彫刻展

昨年(平成十四年)、日本とインドの両国、ならびに日本とパキスタンの両国は国交樹立五十周年を迎えました。これを記念して当館では、インド・マトウラー彫刻展とパキスタン・ガンダーラ彫刻展の二つの展覧会を同時開催します。両展とも「仏像の誕生」が大きなテーマの二つとなっています。

方(の)ヘレニズム・ローマ世界の影響を強く受けた華麗な表現がみられ、国際色ゆたかな造形を示しています。この二つの展覧会では、両地域を代表する仏像をはじめとするすばらしい彫刻作品を、厳選して紹介します。ぜひご期待ください。

紀元世紀、北インドではクシャーン朝という王朝が興隆しました。この王朝のもと、インドのマトウラーとパキスタンのガンダーラで、仏像が初めてつくられるようになりました。



釈迦菩薩像 クシャーン朝 2-3世紀 ペシヴァール博物館

両地域における仏像の誕生はほぼ同時と考えられていますが、その姿は対照的な魅力にみちています。赤色砂岩を用いたマトウラーの仏像は、古代インドの民間信仰に根ざしたヤクシャ像の流れを汲む、エネルギッシュな造形に特徴があります。いつづつ片岩を用いたガンダーラの仏像は、西



シンポジウム 「女性と仏教」

パネリスト 西口順子(相愛大学教授)、牛山佳幸(信州大学教授)、佐野みどり(学習院大学教授)、田中恵厚(宝鏡寺門跡)
コーディネーター 西山 厚(当館資料管理研究室長)
※日時：5月5日(月・祝) 13:00～16:30 会場：講堂 定員：200名 聴講無料

●公開講座●

4月19日(土) 「光明皇后と法華寺」 久我高照(法華寺門跡)
4月26日(土) 「善妙と明恵上人」 西山 厚(当館資料管理研究室長)
5月17日(土) 「香川県歴史博物館本の法華経について」 梶谷亮治(当館学芸課長)

※時間：13:30～15:00 会場：講堂 定員：200名 聴講無料

●ギャラリートーク●

4月23日(水) 「母と子の物語と美術」 稲本泰生(当館教育室長)
4月30日(水) 「描かれた女性発願者」 谷口耕生(当館研究員)
5月 7日(水) 「鎌倉時代の女性と仏教」 西山 厚(当館資料管理研究室長)
5月14日(水) 「奉納された女性の祈り」 伊東哲夫(当館研究員)

※時間：14:00～ 会場：展示室 入館者聴講自由
※都合により、当初予定が変更になりました。

●親と子の文化財教室 『平安時代の歴史と美術』【前期】 受講者募集●

第1回 5月10日(土) 現地見学「教王護国寺(東寺)を訪ねて」 第2回 6月14日(土) 『平安時代の彫刻』
第3回 7月12日(土) 『平安時代の大和絵』 第4回 8月 9日(土) 『平安時代の仏画』

※小学5・6年生、中学生と保護者を対象にした教室です。 ※はがきまたはFAXで、「親と子の文化財教室参加希望」と明記の上、住所・氏名・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加希望の回(何回でも可)を記入して、当館教育室までお申し込みください。
※参加費は無料ですが、現地見学では実費が必要です。 ※時間：第1回のみ13:30～15:30、第2～4回は10:00～12:00 ※会場：現地見学以外は当館講堂
※定員：各回200名(先着順)

●夏季講座 『仏教美術の源流と伝播 -ガンダーラ・マトウラーから奈良へ-』 受講者募集●

本年も下記の要領で夏季講座を行ないます。ふるってご参加ください。

日 程：平成15年7月22日(火)～24日(木)

内 容：講座、特別展『インド・マトウラー彫刻展』・『パキスタン・ガンダーラ彫刻展』見学、現地見学など(詳細未定)。

参加費：3000円

※お申し込みは、申込者1名につき1枚の往復はがきで、「夏季講座参加希望」と明記の上、住所・氏名・学校名・学年・電話番号・返信はがきの宛先を記入して、当館教育室までお申し込みください。締め切りは6月末です。定員は200名ですが、定員を超えた場合は、友の会会員を優先し、あとは抽選となります。
※お問い合わせは当館教育室(0742-22-7008)まで。

●展覧会日程●

	4 月	5 月	6 月
本 館	平常展(彫刻)・[中国古代青銅器]		
西 新 館		『女性と仏教 いのりとほほえみ』(4/15～5/25)	
東 新 館		『女性と仏教 いのりとほほえみ』(4/15～5/25)	

展示品の 見どころ

華嚴宗祖師絵伝 〈義湘絵〉

国宝 鎌倉時代 高山寺蔵

展示期間 5月7日(水)～25日(日)



第三巻

「義湘絵」は、新羅における華嚴宗の始祖といわれる義湘(625～702)の伝記を描いた絵巻である。求法のため唐へ赴いた義湘は善妙という女性と出会う。善妙は道心を発し、「必ずお力になります」と誓った。やがて義湘が帰国すると聞き、善妙は義湘のために様々な道具を用意したが、船がすでに港を出たと知り、海に身を投げる。あわてふためく周囲の人々。しかし善妙の表情はやすらかで、微笑んでさえる【写真】。その時、思いがけない事が起きる。黒雲が湧き、稲妻が走ると、巨大な龍が海面に姿を現わした。善妙が龍に姿を変えたのである。追い付いた龍は、船を背に乗せて新羅へ向かう【表紙写真】。

この絵巻には、善妙の心の動きが見事に描かれている。善妙へのよほどの思い入れなくしてこの絵巻は成立し得なかった。実は善妙こそがこの絵巻の主人公なのである。「義湘絵」の末尾には長い詞書があり、言葉を尽くして善妙を讃えている。善妙は仏法を敬う深心の人。仏法のためなら何にでも姿を変える観音菩薩のような人。敬によりて愛を成じた愛心ある人…。詞書の最後に注目しよう。「善妙帰法のしるしは図絵に表わすに足れり。心ざしにふうめる(含める)深義は図絵を借るにたよりなし。されば聖教につきてほぼその大綱を示す。これまた敬によりて愛を成ずるあまりなり」。善妙の行為が仏法に帰依したゆえの善行であることを論証するために詞書は記された。すべては善妙のためだった。「これまた敬によりて愛を成ずるあまりなり」。誰への愛か。

善妙である。善妙への愛ゆえに記された長文の詞書。このような詞書を書けるのは、明恵上人(1173～1232)のほかにはいない。

明恵は善妙の夢を見た。承久2年(1220)5月のことである。石化した善妙が明恵によって生身の女人に戻る夢だった。明恵が創建した高山寺には善妙の愛らしい像が伝わるが、二体の善妙神像が貞応3年(1224)と嘉禄元年(1225)に造立されたことが記録から知られる。高山寺には善妙寺という別院があった。善妙寺は承久の乱(1221)で夫に死別した女性たちが住む尼寺で、貞応2年(1223)に創建された。

「義湘絵」はいつ誰が何のために制作したのか。「義湘絵」は善妙を讃える絵巻である。物語の筋は『宋高僧伝』所収の義湘伝から採ったが、主人公を善妙に変え、絵だけではわからない深義を伝えるため、長い詞書が付けられた。承久の乱以前に明恵が見た善妙の夢は生々しく、「義湘絵」とは異なる印象を受ける。夢の中の善妙はいまだ神ではない。数年後には高山寺と善妙寺の鎮守神として善妙像が造立される。善妙はいつ神になったのか。夢と神像化をつなぐあたりに「義湘絵」を位置付けたい。善妙の行動を正しく解釈し、石化した善妙を救い出すごとく、善妙が神として祀られるに値する存在であることを知らしめるため、善妙への愛を込め、明恵によって「義湘絵」は制作されたと私は考えている。そしてこの絵巻のよき読者に善妙寺の尼衆がいたことは言うまでもない。

(資料管理研究室長 西山 厚)

■開館時間 9時30分～17時、(毎週金曜日は19時まで)

※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日 月曜日

(ただし4月28日、5月5日は開館、5月6日(火)休館)

■観覧料金

平常展		大 人	大学・高校生	
	一 般	420円	130円	
	団 体	210円	70円	
特別展		大 人	大学・高校生	中学・小学生
	一 般	830円	450円	250円
	団 体	560円	250円	130円

*団体は責任者が引率する20名以上。

*「女性と仏教 いのりとおほえみ」開催中でも、本館のみ観覧のかたは、平常展料金で入館できます。

*5月5日(月・祝)は小・中学生無料



〔交通案内〕近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

「奈良国立博物館だより」は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(90円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の企画室にお申し込みください。



奈良国立博物館
Nara National Museum